



慈恵大学病院 COVID-19の取り組み

クルーズ船客の 受け入れ

2019年12月に中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスSARS-CoV-2による感染症COVID-19は、2020年2月にクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客にも拡がり、横浜港に入港しました。慈恵大学病院はクルーズ船での感染者を2月10日～11日で3名収容しました。これが新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者受け入れのはじまりです。

オール慈恵で 取り組む体制



当院では、2020年2月21日に「Team COVID-19」を立ち上げると共に、患者発生状況、政府・東京都のCOVID-19に関する対応を考慮し、2020年3月26日に学校法人慈恵大学として「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、感染対策および診療体制の構築、COVID-19陽性患者さんの入院に係る病棟再編などを行っています。

“COVID-19に対してオール慈恵で対応する”が対策本部の理念です。すなわち、附属病院だけではなく大学全体の対応策を学校法人慈恵大学全体で考え、決定し、実施していく体制です。

PCR検査では基礎医学講座などの教員が積極的に支援し、講座や部署の壁を越えて大学内に「Team COVID-19 PCRセンター (TCOPセンター)」を2020年4月に立ち上げました。これは基礎系講座からなる学長直轄の学内横断的組織で、附属病院のPCR検査体制を支援する役割を担いました。

(2022年3月31日TCOPセンター検査業務終了)

陽性患者の 受け入れは トップクラス

当院は特定機能病院としての使命を果たしつつ、東京都新型コロナウイルス感染症入院医療重点医療機関として入院患者さんの受け入れを行っており、都内の大学病院としてはトップクラスの診療実績をあげるなど、最大級の医療貢献をしています。

地域医療への 貢献

行政官庁の要請に応え、軽症者のホテル宿泊療養のサポートや港区民の予防接種会場として接種場所を提供するなどの社会貢献もしてまいりました。

一丸となって 使命を果たす



医療現場では、刻々と状況が変化する中、病院の使命を果たすために医師、看護師やコメディカルスタッフが、日夜努力して患者さんの治療にあたっております。そして、多くの企業、患者、同窓などの方々から医療用品をはじめとする品々が寄贈され、現場で頑張っている医療者が勇気づけられましたこと、改めて感謝申し上げます。

2020年2月に初めてのCOVID-19陽性患者さんを収容してから今日に至るまで、一般病棟での院内感染発生対応や診療制限を行うなど、医療は大きなダメージを受けましたが、教職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症に対応しています。

これからも大学と附属病院の使命を果たし、社会のニーズに応えてまいります。そして、「社会貢献」と「信頼される病院をめざす」という病院の理念と「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神にもとづいた医療を展開してまいります。

みなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022年12月

慈恵大学病院 病院長 小島 博己

● 来院時のお願い

みなさまには、来院時にはマスク着用と手指衛生にご協力をお願いします。



- ・病院入口にて全ての患者さま、お付き添いの方に検温器（サーモグラフィー）で体温チェックを実施しています。
- ・発熱やのどの痛みなど症状がある方は、診察エリアを分けて診療を行っておりますので、お申し出ください。
- ・入院される方には、入院前までに全ての方に入院前検査センターへお越しいただき、PCR検査と必要に応じて胸部のCT検査を実施しています。特に入院前2週間は外食を避けるなど、感染リスク行動は控えてお過ごしください。



慈恵大学病院

〒105-8461 東京都港区西新橋3-19-18

<http://www.jikei.ac.jp/>